

風呂敷を活用した 出前授業プログラム

2008

活動報告



財団法人千里文化財団

風呂敷を活用した出前授業プログラム 2008 活動趣旨

趣 旨

本事業も2年目を迎えた。日本の伝統文化である風呂敷文化への注目はますます高まりをみせるなかで、「使用法を知りたい」、「子どもたちにも使い方を教えたい」という要望も大きくなっている。

一枚の布を工夫して使う風呂敷の使用法を学ぶことはまた、環境に配慮した生活を実践するツールとしても期待できるものである。

そうした状況をふまえ、本事業では伝統文化を体験する、環境について考えることを目的として、小・中学校や放課後教室などに出向き、風呂敷体験のプログラムを実施している。また、今年度は昨年の課題をふまえ、親や地域の教育指導者を対象として、教材としての風呂敷の魅力を知ってもらい、日々の活動に取り入れてもらうことを目指して大人向けの研修や教養講座などの開催にも力を入れた。

本報告書では、それぞれの講座ごとに概要をまとめ、次年度以降の活動に向けての課題についても考察する。

本報告書は、2008年4月～2009年2月にかけて、日本財団ならびに Panasonic 株式会社の助成、および日本風呂敷協会の協力のもとに実施した活動をまとめたものである。

小林万里絵 (財団法人千里文化財団)

田中 千尋 (財団法人千里文化財団)

吉田 瑛美 (財団法人千里文化財団)

風呂敷を活用した出前授業プログラム 2008 活動報告

1. 生徒・児童を対象としたプログラム

- 1 - 1. 実施概要
- 1 - 2. 利用学年など
- 1 - 3. テーマ
- 1 - 4. 授業内容
- 1 - 5. 使用したもの
- 1 - 6. 生徒・児童の反応 感想文、アンケート結果から
- 1 - 7. 取材
- 1 - 8. 今後の課題について

2. 親子体験教室

- 2 - 1. 実施概要
- 2 - 2. 参加者の年齢
- 2 - 3. 体験内容
- 2 - 4. 使用したもの
- 2 - 5. 参加者の感想とその後の反応
- 2 - 6. 今後の課題

3. 大人を対象とした講座

- 3 - 1. 講座実施概要
- 3 - 2. 講座のテーマと内容
- 3 - 3. 受講者
- 3 - 4. 使用したもの
- 3 - 5. 参加者の反応、感想などから
- 3 - 6. 取材
- 3 - 7. 今後の課題

資料

活動一覧

アンケート集計

指導案

1. 生徒・児童を対象としたプログラム

1-1. 実施概要

2008年度は小学校11件、中学校2件、放課後教室4件の計17件、1,347名を対象としてプログラムを実施した。(実施校一覧は資料参照)

出前授業の募集にあたっては、「出前授業案内」パンフレットを作成し、大阪府、京都府、兵庫県下の小学校、中学校に配布した。放課後教室については、教育委員会の担当者に情報提供をおこなったほか、指導者研修の形で実施した講座にて取り組みを紹介した。

授業、プログラムの申込については、パンフレットを見たクラス担任や教科担任、指導者（放課後教室など）による電話での問い合わせのほか、口コミによる問い合わせもあった。



1-2. 利用学年など

申し込みがあり、出前授業を実施した学年は下記の通りである。(実施校一覧は資料参照)

<小学校>

2年生 1校 (1クラス 32名)
3年生 4校 (11クラス347名)
4年生 4校 (12クラス446名)
5年生 4校 (7クラス219名)

<中学校>

1年生 1校 (2クラス 80名)
2年生 1校 (4クラス135名)

<放課後教室>

小学生 4件 (88名)

主な利用学年は小学校3年生から5年生で、小学校2年生、中学校1・2年生の利用はそれぞれ1校ずつだった。小学校2年生の利用は今回が初めてであり、「授業」として話を進めていくのは少し難しいという感じもあったが、児童たちは興味をもって体験に取り組んでいた。放課後教室での利用は、低学年も多いが、大人のスタッフも多く、



年長の子が年下の子に教えてあげる姿も見られ、十分に体験ができています。

自分たちで自由に発想して包み、楽しむという点では、小学校3～4年生向けだが、高学年や中学生も体験には積極的に取り組んでおり、内容のアレンジで、低学年や高学年、中学生にも柔軟に対応できるプログラムであることがわかる。

1-3. テーマ

風呂敷は多様な面をもっているため、いくつかのテーマの設定が可能である。今回、実際に利用のあったテーマは下記のとおりである。(1ヶ所で複数のテーマを設定しているところもある)

日本の伝統文化 (総合学習、道徳、図工) ...	10件
環境 (総合学習、家庭科)	8件
昔の道具 (3年生社会科)	5件

最も利用の多かったテーマは「日本の伝統文化」であった。総合学習や道徳の授業として利用する学校が多い。包んだ時の形の美しさや柄という点から、今年度はあらたに図画工作での利用も1件あった。続いて多いのが「環境」で、総合学習や家庭科としての利用であった。中学生は家庭科で、事前に3R (reduce, reuse, recycle) や5R (3 R + refuse, repair) などについて学習し、環境に配慮した生活の実践として本プログラムが活用されている。学年が限られるものの、小学3年生の社会科「昔の道具」での利用も人気であった。

1-4. 授業内容

授業内容の基本は次の通りである。

1. 中身当てクイズ (様々な形や素材のもの5～6点を包んでおき、クイズ形式で中身を当てながら、具体的な使用例や「ものの形にあわせて包める」等、風呂敷の特徴を紹介)
2. 体験 (真結び、スイカ包み、エコバッグ、ペットボトル包み、本包みなど)
3. 世界の風呂敷紹介

上記3点を基本に、授業のテーマや学年にそって内容をアレンジしている。たとえば「日本の伝統文化」「昔の道具」では、はじめに風呂敷が「運ぶ」道具として日常生活の様々な場面で使用されていたことを紹介する。「環境」の場合は、過剰包装やレジ袋削減運動について話し、エコバッグとしての風呂敷の利用方法を紹介、実際に包み方を体験している。

また、低学年は「真結び」を手品風にあレンジして紹介し、自由に体験できる時間を増やす等の工夫をするのに対し、高学年には体験の種類を増やすことや、具体的な実践例、社会での注目事例などを紹介している。特に中学生には、より興味を持ってもらうために「環境」との関連だけではなく海外でも注目されていること等についても伝えるようにしている。

授業時間は45分が基本だが、進み具合によっては体験の時間が少なく、駆け足になってしまうこともある。そのため、担当者とのやりとりの結果、1時間や1時間半に変更して行う学校もあった。時間が多くとれた学校では、包むものを数種類、用意して自由に包む時間を増やすことや、写真パネルと同じ包み方を自分たちで考えるなど、最後に発表の時間をとった。

本プログラムの各学校でのカリキュラム上の位置づけとしては、事前に教科書などを用いて風呂敷について学んでいたりと、授業後に全校放送で真結びとエコバッグについて紹介をした学校などがあった。

1-5. 使用したもの

- ・体験用風呂敷・・・50cm、68cm、90cmの各サイズを参加者の人数分
- ・包む物・・・ボール、ペットボトル、本など
- ・世界の包み布紹介パネル3種
- ・配布資料・・・子ども用テキスト『ふるしきを使ってみよう』

1-6. 生徒・児童の反応 感想文、アンケート結果から

子どもたちは、丸いものが包めることやエコバックにたくさん入る点などに驚いている様子である。また、レジカゴに直接、風呂敷をしいてつくるエコバッグを見せると「便利！」という声があがったり、「お母さんに教えてあげる！」という声があがったりしていた。また、真結びの練習も低学年には難しいが、できたときの喜びは大きいようである。

アンケートの回答は、11校969名分が寄せられた。(アンケート集計結果については資料参照) アンケートの結果を見ていると、一番人気があったのはスイカ包みで、難しかったものがペットボトル包みである。授業後に包んだものとしては、スイカ包みは少なくペットボトル包みや真結びが挙げられている。ペットボトル包みは、授業後に家庭でも使えるようにということで、ピン包みをアレンジし、風呂敷のかわりにハンカチなどでもできるように工夫したものであり、効果があったと考えられる。その他、自分の家のものを自由に包んだという回答もあり、授業で学んだことがきちんと応用されていることがわかった。感想では「スーパーで実際に使ってみた。とても手早く運べた」という声や「大切なものを運ぶ時にふわっと包んで運んだ」など、風呂敷の特徴を活かし、実生活にうまく活用している例もみられた。

「授業後、誰かに話したか」との質問にも半数以上の児童が「はい」と答えている。両親や兄弟に話した児童が大半で、祖父母や友人に話したとの回答もあった。「おかあさんにエコバッグを作ってプレゼントした」「おばあちゃんにもらいに行く」との感想もあり、親子間や祖父母とのコミュニケーションが促進されていることが確認できた。

風呂敷の良いところについての質問には「何でも包める」という回答が最も多く、その後に「エコバッグになる」等、環境にやさしいということが挙げられていた。そのほか風呂敷の柄の美しさなどについて挙げる児童もみられた。風呂敷という素材から学びとれるものはたくさんあるということが、このことから読み取れる。



1-7. 取材

新聞社 2 件、自治体の広報課 2 件、テレビ局 1 件

1-8. 今後の課題について

学校では、総合学習、社会科、道徳、家庭科、図工と利用教科も次第に増えてきている。教員からのアイデアも参考にしながら教材も工夫していきたい。たとえば、両親や祖父母に風呂敷の思い出をきく「インタビューシート」や、家族や友人などに包み方を教え、チェックをもらうカードなどを具体的に検討していきたい。

また、放課後教室などの活動では、体験プログラムを探しているところも多いようなので、そうしたところに情報提供できるように、今後も担当者との関係を築いていきたい。学校も含め、利用者からの口コミなどがきっかけになるケースも多いようなので、紹介を呼びかけていきたい。



2. 親子体験教室

2-1. 実施概要

今年度は社会教育施設である博物館にて開催した。風呂敷や世界の包み布を集めた展示と関連しての開催が2件、それ以外が2件の計4件。展示に関連しての講座については、主催地域の社会教育担当者をとおして広報をおこない、それ以外のものについては、募集ちらしを作成・配布したほか、新聞やタウン誌のイベント告知欄に掲載するなどして募集をおこなった。(実施一覧は資料参照)



共通して見られた傾向として、事前申し込みがこちらの予想よりも少ないことがあげられる。学校などでの実施により、子どもたちが楽しめる内容であることは間違いないのだが、一般的に風呂敷を親子で体験して楽しいというイメージが想像しにくいのだろうか。同時期に実施した糸を紡ぐ講座は、申し込みが多数あったのと対照的であった。学校を離れた場合、大人や親が学んで子どもたちに伝える、というメッセージの方が伝わりやすいようであった。

2-2. 参加者の年齢

就学前の児童から小学高学年まで幅広く参加していた。親と一緒に体験をすることにより、幼い子どもでも体験が可能なのがメリットである。また、社会教育関係者や、教育学部学生等の大人のみでの参加もあったが、子どもたちとの体験の時間を楽しんでいるようであった。

2-3. 体験内容

下記の3点は各回共通しておこなった。

1. 中身当てクイズ
2. 体験（真結びの結び方、スイカ包み、エコバッグ、ペットボトル包み、本包み）
3. 世界の包み布の紹介

そのほか、国立民族学博物館での講座は、事前申し込み受付の段階で幼い子どもの参加が見込まれたため、絵本『ふるしきばあちゃん』の読み聞かせや絵本『世界のだっこおんぶの絵本』を世界の包み布の紹介に使用した。



『ふるしきばあちゃん』は、ストーリー形式で、使い方を紹介しているため、とくに年齢の低い子は楽しんでいた。また、大人のみ参加者にも好評であった。

2-4. 使用したもの

- ・体験用風呂敷・・・50cm、68cm、90cmの各サイズを参加者の人数分
- ・包む物・・・ボール、ペットボトル、本など
- ・世界の包み布紹介パネル3種
- ・配布資料...子ども用テキスト『ふるしきを使ってみよう』（各家族に1冊配布）

- ・参考資料...絵本『ふるしきばあちゃん』（月刊予約・科学絵本『かがくのともし』通巻463号）
- ・絵本『世界のだっことおんぶの絵本』（エメリー&ドゥルガ・バーナード文・絵、メディア出版）



2-5. 参加者の感想とその後の反応

感想としては、包み方のバリエーションへの驚きや「実際に使ってみる」というもの、「親子で体験してみて、子どもと楽しめる体験であることが分かった」「幼稚園の保護者に伝えるなど大いに活用したい」など、今後の活動のアイデアになっている様子が見えがえた。

また、風呂敷のおみやげ（有料）をつけたワークショップ参加者（8才の女兒）が、後日、博物館に見学に再度来館した際、おみやげの風呂敷でリュックサックを作り、実際に背負ってきていた。「飽きることなく、毎日風呂敷をさわっている」との事だった。

2-6. 今後の課題

参加してみると親子で楽しんでもらえるのだが、募集の時点では難しい内容のように感じられるようである。たとえば夏休みの宿題に使えるように、刺し子やステンシル、絞り染めで模様を施した風呂敷を作成する、デジタルカメラで様々なものを包んだ様子を撮影し、自分なりの手作り「風呂敷使い方 Book」のようなものを作成するなど、内容を工夫していきたい。

また、地域の放課後教室や生涯学習センターの子ども向けのプログラムを開催している機関などと連携して講座を開催していくことも検討したい。



3. 大人を対象とした講座

3-1. 講座実施概要

今年度は、下記の4つのパターンで講座を開催した。

1. P T A や母親教室など親や保護者を対象としたもの
2. 放課後教室など地域の社会教育指導者研修
3. 一般市民向けの講座
4. 日本語教室

募集にあたっては、講座の募集案内を作成し、社会教育課などから情報を得て、幼稚園、学校のP T A、放課後教室担当者などに募集のパンフレットを配布した。

その結果、地域の社会教育指導者研修7件、P T A 教養講座や母親教室4件、一般市民対象の講座5件、日本語教室1件。全体で17件558名を対象として実施した。実施一覧については資料参照



3-2. 講座のテーマと内容

風呂敷の活用法

環境

日本の伝統文化（異文化理解）

子どもたちに日本の伝統文化を伝える

風呂敷の歴史などに関する概要の説明と、風呂敷の活用法（体験）をベースに、それぞれの講座開催の趣旨にあわせて、環境や伝統文化、子どもたちに伝えるプログラムとしての提案などをおこなった。体験の時間も含めて1~2時間での体験。少人数、子ども連れの講座の場合は1時間程度で実施している。

在日外国人を対象とした日本語教室での活用では、体験をしながら言葉が学べるのが良かったという声があった。講座の後にも自国の文化を紹介する作文のテーマとしても活用されていた。新しい講座の活用法として、展開を考えていきたい。



3-3. 受講者

- ・ 母親、父親など保護者
- ・ 社会教育関係者（幼稚園・保育園・学校教員、公民館職員、子どもの活動支援のN P O関係者、放課後教室担当者など）
- ・ 一般市民

3-4. 使用したもの

- ・体験用風呂敷・・・50cm、68cm、90cmの各サイズを参加者の人数分
- ・包む物・・・ボール、ペットボトル、ビン、本など
- ・世界の包み布紹介パネル3種
- ・配布資料『風呂敷の歴史とその活用法』
- ・参考資料『もったいない』（プラネット・リンク著、マガジンハウス、2005年）



3-5. 参加者の反応、感想などから

小さな子ども連れの体験教室では、参加者の熱心さが目立った。ほかの講座では当日欠席なども多いということだが、欠席者は少なかった。若い母親世代に環境に対する意識や風呂敷への注目度が高いこと、子ども連れで「学びたい」という強い気持ちがうかがえた。子連れで参加でき、実際の生活にも役に立ち、子どもたちにも教えてあげられるという点が好評であった。

また、地域の社会教育指導者に対しての講座では、地域の公民館や放課後教室で風呂敷を集め、子どもたちがいつでも体験できるようにしたり、地域の大人や高齢者に使い方の指導をしてもらう機会を設けるなどすれば、多様な年齢層の間で交流がはかれるのでは、という提案をおこなった。実際にやってみますという人もいた。

直接、子どもの教育に関わっていない人でも、あらためて風呂敷を子どもたちに教えてみたい、という感想を寄せる人もあった。子どもに関わる親、教育関係者など子どもたちに日常的に接する大人に体験してもらい、それぞれが活用できるような提案をしていくことの重要性を認識した。



3-6. 取材

新聞社 4件 テレビ局 3件



3-7. 今後の課題

PTA を対象とした講座募集については、PTA の情報収集の時期にあわせ、年末から年明けにかけてパンフレットを配布して広報する必要があることが分かった。PTA 活動では、口コミなどが重要な情報源ともなっているようなので、パンフレットも含めてさまざまな形での広報活動、活動紹介を試みたい。

放課後教室など地域の子どもに関わる指導者研修での反応はよかったので、今後も利用を促したい。自治体によって担当部署も異なるので、できるだけ多くの方に会って、話をしていきたい。

とくに若い母親世代を対象とした講座では、「自宅に風呂敷がないので教材として持ち帰れる風呂敷があったら良いのに」という声もあったので、今後、希望者には教材として提供できる内容も検討していきたい。



〈資料〉

風呂敷出前プログラム実施一覧（2008年4月～2009年2月）

学校や子どもを対象とした授業

日程	学校・施設名	学年	人数	テーマ	備考
7月3日 (木)	白山市立鳥越小学校	5年1クラス	21	日本の伝統文化	
7月22日 (火)	高槻市立土室小学校	2年1クラス	32	日本の伝統文化	教師、幼稚園教諭の参加
8月27日 (水)	高槻市立清水小学校	4年3クラス	112	環境	
8月29日 (金)	高槻市立松原小学校	4年2クラス	71	環境	
9月12日 (金)	摂津市立摂津第三中学校	2年4クラス	135	環境	
11月12日 (水)	宇治田原町立宇治田原小学校	1～6年	38	日本の伝統文化	保護者、地域の方の参加あり
11月28日 (金)	池田市立石橋小学校	3年3クラス	79	昔の道具、伝統文化	
12月2日 (火)	茨木市立庄栄小学校	5年2クラス	54	環境・昔の道具	
12月8日 (月)	尼崎市立園和小学校	5年2クラス	72	日本の伝統文化	
12月9日 (火)	尼崎市立園和小学校	5年2クラス	72	日本の伝統文化	
12月26日 (金)	大阪市立内代小学校	1～6年	20	日本の伝統文化	
1月15日 (木)	ノートルダム学院小学校	4年4クラス	160	環境	保護者参加あり
1月20日 (火)	茨木市立彩都西小学校	3年3クラス	103	昔の道具	
1月22日 (木)	豊中市立桜塚小学校	3年2クラス	72	環境・昔の道具	
1月28日 (水)	長岡京市立第六小学校	3～6年	12	日本の伝統文化	保護者、地域の方の参加あり
2月3日 (火)	茨木市立耳原小学校	3年3クラス	93	昔の道具	保護者参加あり
1月10日 (火)	茨木市立耳原小学校	4年3クラス	103	環境、日本の伝統文化	教員の参加あり
2月18日 (水)	茨木市立北陵中学校	1年2クラス	80	環境	保護者、教員の参加あり
2月25日 (水)	長岡京市立長法寺小学校	4～6年	18	日本の伝統文化	保護者の参加あり

合計 1,347名

親子体験教室

日程	学校・施設名	対 象	人数	テーマ
7月26日(土)	石川県立歴史博物館	小学生とその保護者	38	日本の伝統文化、環境
8月3日(日)	国立民族学博物館	小学生とその保護者	15	環境、日本と世界の包み布
8月19日(火)	国立民族学博物館	小学生とその保護者	14	環境、日本と世界の包み布
2月22日(日)	長崎県美術館	小学生とその保護者	34	日本の伝統文化、世界の包み布

合計 101名

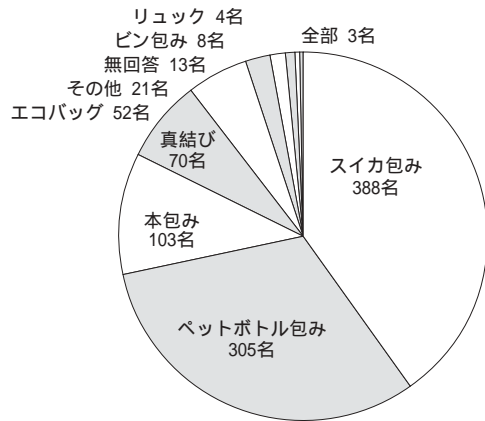
大人向け講座

日程	場所/団体	対 象	人数	内容
5月28日(水)	京都府社会教育指導者研修会	社会教育指導者	50	プログラム内容の紹介、体験
6月3日(火)	千里文化財団/箕面市立せいなん幼稚園PTA役員	箕面市立せいなん幼稚園PTA役員	5	PTA教養講座の事前研修
6月9日(月)	箕面市立せいなん幼稚園PTA	箕面市立せいなん幼稚園PTA役員、保護者	40	PTA教養講座。風呂敷の活用法、環境と伝統文化を子どもに伝える
6月17日(火)	島本町立生涯学習センター	職員、講座運営者	5	風呂敷活用講座の事前研修
6月19日(木)	島本町立生涯学習センター	一般市民。高齢者講座受講者	60	高齢者対象の講座。風呂敷の活用法、環境と伝統文化を子どもたちに伝える
7月2日(水)	石川県立歴史博物館	一般市民	50	風呂敷の活用法、環境と伝統文化を子どもたちに伝える
7月27日(日)	喫茶・ギャラリー竹屋	一般市民	12	風呂敷の活用法、環境と伝統文化を子どもたちに伝える
8月9日(土)	草津市立まちづくりセンター	日本語教室受講者	34	風呂敷文化の体験、世界の包み布の使用の紹介
8月21日(木)	綾部市中央公民館	綾部市まなび教室指導者	80	子どもたちと風呂敷を体験するためのレクチャー。使い方の体験
10月20日(月)	相良台小学校	木津川市学び教室指導者など	40	子どもたちと風呂敷を体験するためのレクチャー
11月19日(水)	吹田市吹一地区公民館	一般市民。高齢者講座受講者	20	風呂敷活用法の体験、子どもたちに伝える
1月8日(木)	長崎県美術館	社会教育関係者など	60	風呂敷活用法の体験、子どもたちと風呂敷を体験するためのレクチャー
1月13日(火)	西百舌鳥地域会館	堺市在住育児サークル	20	風呂敷体験(とくに子どもとの遊びや体験につながるものを)
2月12日(木)	和歌山県男女共生社会推進センター/和歌山市集いの広場	和歌山市在住育児サークル/親子のあそび場	30	風呂敷体験(とくに子どもとの遊びや体験につながるものを)
2月21日(土)	長崎県美術館	一般市民	52	風呂敷使い方体験、子どもへの伝え方

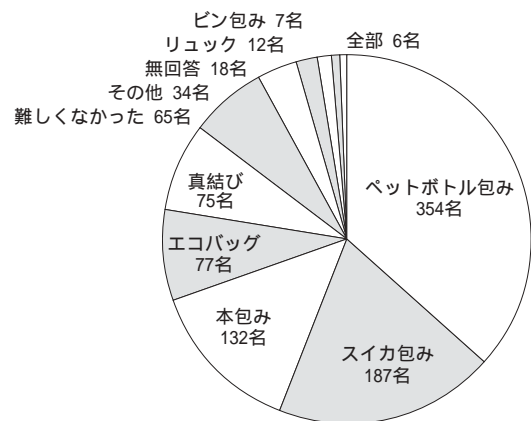
合計 558名

アンケート集計結果

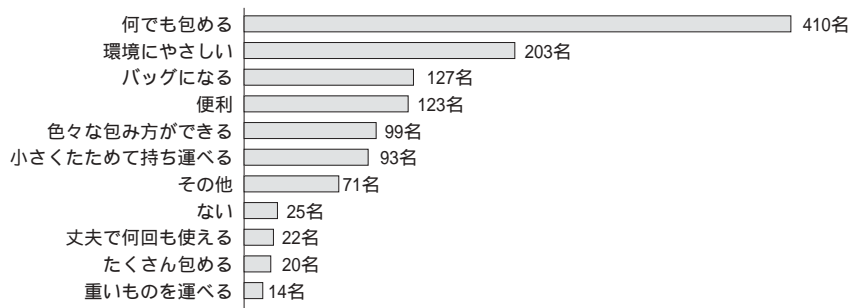
Q1. おもしろかった包み方



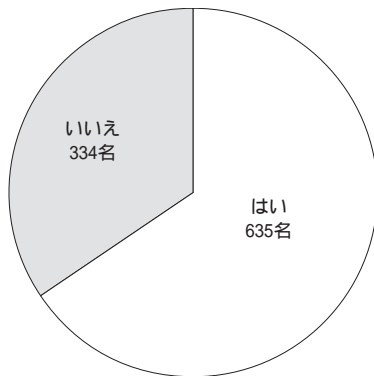
Q2. 難しかった包み方



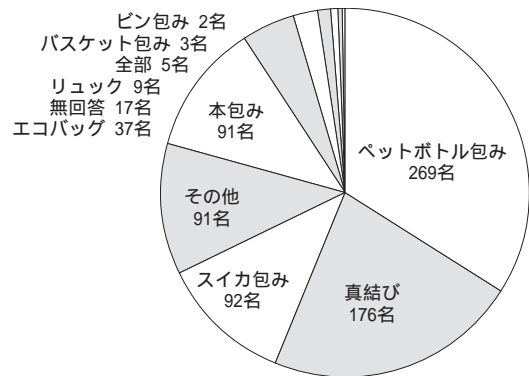
Q3. 風呂敷のよいところ (複数回答)



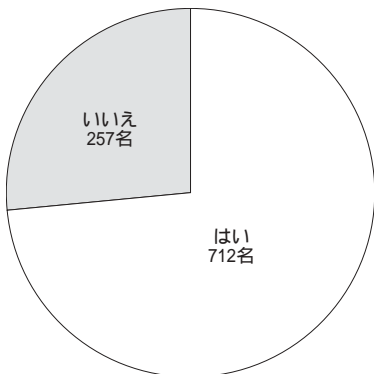
Q4. 授業後に風呂敷を使いましたか



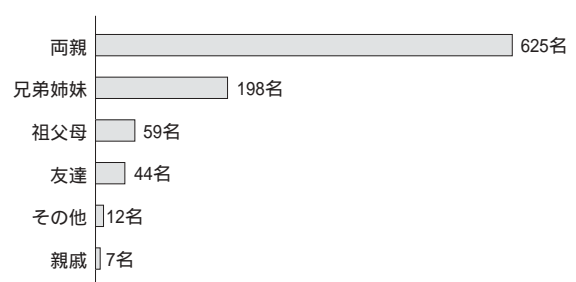
Q4-2. どのように使いましたか (複数回答)



Q5. 風呂敷の包み方や使い方をだれかに話したり教えたりしましたか



Q5-2. 誰に話したり教えたりしましたか



○子どもたちの感想

- ・ふろしきはおとなのあそびだとおもいました。(2年男子)
- ・ふろしきなんてつけたことがなかったので、どうかわからなかった。おもしろかった。家に大きなふろしきがあるみたいだから、家に帰って、お母さんと作ってみたいです。(4年女子)
- ・ふろしきって、すごくすごく、おもしろなものだったな。
写真を5枚とってもらったよ。あの写真のわたしは、けっさくだね。全身ふろしきだらけ。でも、ふろしきっておもしろ～(4年女子)
- ・けっこうかんたんだって(こつをつかめば)、なんでもいれられて、ものによって、つつみ方がちがう。いろいろな包み方をしたのでおもしろかったです(3年女子)
- ・風呂敷ってすごいな、みんなに教えたいと思いました。(6年女子)
- ・(風呂敷のエコバッグを)スーパーで実際に使ってみたら、とても早くすんでよかった(5年男子)
- ・風呂敷はとても便利だと思ったので、買ってもらおうと思う(5年女子)
- ・ふろしきもの(大事なものの様子)を運ぶときに、ふわっと包んで運んだ(5年男子)
- ・お母さんにエコバッグをつくってプレゼントした(5年女子)
- ・もらった本をみながらペットボトルや真結びをやったら上手にできた(5年女子)
- ・ふろしき～楽しい～どんどん包みたい～
エコバッグおきにいいいり ボール包みおきにいいいり
本包おきにいいいり ぜんぶがぜんぶおきにいいいり(5年女子)
- ・スーパーで使ってみた。とても早くできたし便利だった。(5年女子)

○親や保護者、指導員からの感想

- ・簡単な結び方で、とてもおしゃれなバッグに変身する風呂敷を見直しました。日本古来の文化を大切にしたいものです。
- ・ふろしきひとつでいろんなことができることがわかり、とても勉強になりました。まずは自分が結べるようになって、子どもにも伝えていきたいと思います。
- ・昔の良さを、今に伝えることをどんどんして欲しい。温故知新のような発想は大好きです。
- ・文化の伝承という意味で公民館の図書室でやってみようと思いました。さっそく不用ふろしきの回収を思い立ちました。
- ・風呂敷のイメージが変わりました。子どもたちと一緒に遊べるものも多いので教えてあげたいなと思いました。
- ・幼稚園の保護者にも伝えたり、大いに活用していきたい。

指導案

体験内容は状況に応じて変更している

指導内容	指導方法	資料など
(導入) 10分 風呂敷って何だろう？	風呂敷で包まれたものの中身を当てるクイズをと おして、物の形に合わせて包むことができること やかつて物を包んで運ぶ道具として使われてきた ことを学ばせる。	唐草模様の風呂敷 風呂敷で包んだもの (重箱・果物模型・ボール・ペッ トボトルなど)
結び方の練習	基本の結びである真結びを練習	風呂敷
(展開) 25分 風呂敷で包んでみよう	ボール、ペットボトルの包み方を練習する	風呂敷 包む物 (ボール、ペットボトル)
風呂敷を利用する (環境問題と風呂敷)	風呂敷エコバッグの作り方の指導をとおして、レ ジ袋の代用物としてのエコバッグの利点を学ばせ る。	
工夫して包んでみよう	風呂敷で様々な物を包ませる。 子供たちそれぞれが考えた包み方を発表させる。	教室内にあるもの (教科書、リコーダーなど)
(まとめ) 10分 世界の包み布	日本以外の国にも同じような布の使用例があるこ とを紹介する。	世界の包み布パネル 布、包まれるもの (人形)
現代における風呂敷	風呂敷で物をつつんでみた感想等を子ども達に聞 きながら、風呂敷が現在、見直されてきている事 を再確認する。	テキスト



発行日 2009年3月31日

編集・発行 財団法人千里文化財団

〒565-0826 吹田市千里万博公園1-1

TEL : 06-6877-8893

FAX : 06-6878-3716

e-mail : furoshiki@senri-f.or.jp